

## 2021年3月期 第1四半期決算電話説明会 質疑応答

実施日	： 2020年7月30日（木）
当社説明者	： 代表取締役社長（兼）COO 上西 京一郎 常務取締役 経理担当役員 横田 明宜 IR グループマネージャー 菅原 海（司会）

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

- Q1) 入園者数水準の向上はどのような基準で行っていくのか。感染者数やパークの状況だけでなく、外部のルールも影響するのか。
- A1) 明確な入園者数水準は開示していないものの、コロナ禍でも安全・安心を担保できるよう制限をかけている。「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った入園者数制限をしているが、状況を見ながら慎重に判断していきたい。
- Q2) 単価向上に前向きになったように感じるが、新型コロナウイルス感染症流行の影響で価格戦略やゲストのマインドに変化はあると考えているのか。
- A2) 感染症の流行によって、チケット価格変動制や価格戦略の多様化など、積極的な議論の必要性を感じている。ゲストが東京ディズニーリゾートに求めることは不変であり、安全・安心に楽しめる場所であることを伝え、多くのゲストにご来園いただけるようなパーク環境を創っていきたい。
- Q3) コストコントロールの削減幅や実施時期を教えて欲しい。固定費の大部分を人件費が占めているが、削減は可能なのか。
- A3) コストコントロールチームを組成し、今年度は確実に抑制できる販売促進費やスペシャルイベント関連費用などの削減に取り組んでいくが、中長期的には、リゾートの魅力とバランスを取りながら考えていく必要がある。人件費については、大前提として雇用を守りたいと考えており、既に役員報酬の削減や社員の一時帰休なども実施している。今後は、配置転換による生産性向上なども図っていきたい。
- Q4) 東京ディズニーランド大規模開発エリアの開業はどうするのか。
- A4) パークのキャパシティが増加する一方で、ゲストが新規エリアに密集する可能性がある。安全・安心を担保できると判断すれば可能な限り早く開業したい。魅力的な施設なので、多くのゲストに早く体験していただきたいと考えている。
- Q5) IT活用によってパークの体験価値をあげることはできるのか。
- A5) 資金繰りの観点から投資の取捨選択をしているが、安全・安心かつ効率的なパーク運営にIT活用が寄与するものと考えており、優先順位を高くし、積極的に取り組んでいきたい。

- Q6) 東京ディズニーシー大規模拡張プロジェクト以降にも開発をしていく計画があったと思うが、単価向上に踏み切る場合にはこれ以上大規模投資は必要なくなるということか。
- A6) 現在発表済みの大規模投資で東京ディズニーリゾートの魅力を十分向上させることはできると考えている。今後も、更新改良投資以外にもリゾートの魅力向上には成長投資が必要であり、継続的に目玉となるコンテンツを創ることでゲストの体験価値を維持向上させることができる。ただし、発表済みの大規模投資以降の計画は入園者数や単価のバランスを見ながら検討する。
- Q7) オリエンタルランドイノベーションズの設立は新型コロナウイルス感染症流行の影響か。将来的な新規事業の想定している規模感はどのくらいか。
- A7) 新型コロナウイルス感染症の影響はなく、当初の計画どおり会社設立をした。具体的な規模感は決まっていないが、将来的には柱となるような事業を育てたい。

以上